

IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【区間の現状】

- 武庫川峡谷部直下の市街地を流れる区間
- 峡谷の出口付近に自然性の高い礫河原が存在
- 水当たりの強い岩場には、局所的にサツキ等の貴重な岩上植物が生育



IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【事業計画】

区間長: 2.45km

(生瀬大橋～名塩川合流点)

- 川底の掘り下げ
- 川幅の拡大

など



IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【現在の河川環境】

原則1	魚類:アカザ、アブラボテ等(6種)
	底生動物:キイロサナエ等(7種)
	植物:サツキ、アオヤギバナ等(4種)
	爬虫類:ニホンイシガメ(1種)
	鳥類:イカルチドリ、イソシギ等(11種)
	昆虫類:アイヌハンミョウ等(4種)
原則2	4-1 攪乱で維持される礫原草原(2ユニット)
	4-2 攪乱で維持される溪谷の河辺・岩上植物群落(3ユニット)
	5-2 広がりのあるオギ群集(1ユニット)
配慮を検討すべき「生物の生活空間」	3-2 礫原草原を確保すべき場所
	4-1 外来植物群落が侵入している場所
	4-2 外来性魚類が侵入している場所

IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【影響評価・原則1】

(魚) アカザ、アブラボテ等 (底) キイロサナエ等 (爬) ニホンイシガメ	施工時には減少またはほぼ消失。生息環境である瀬・淵の再生により回復が予想される。	➡
(植) アオヤギバナ、サツキ	改変区域外であるため影響は小さい。	➡
(鳥) イカルチドリ、イソシギ等	生息環境となる砂州は一旦消失。生息環境の再生と餌となる生物の回復により回復が期待される。	➡
(昆) アイヌハンミョウ等	施工時には減少。生息環境である礫河原等の再生により回復が予想される。	➡




生息環境となる礫河原や瀬・淵の再生が必要

IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【影響評価・原則2】

4-1 攪乱で維持される礫河原(現状:2ユニット)

検討の視点	礫河原に特有な植生が生育する場の再生	
総量維持の 評価指標	①水理諸量(平均年最大流量時の川幅水深比、無次元掃流力、河床勾配、河床形態) ②水面からの比高	
評価結果	①一部の水理諸量の変化率が目標値を超えるため、礫河原の再生には長期間を要する可能性がある。 ②現状より比高は小さくなり、植生が変化する。	




礫河原の速やかな再生を促進するため、現況河床形状のスライドダウン等により多様な生息場を確保する。

IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【影響評価・原則2】

4-2 攪乱で維持される溪谷の河辺・岩上植物群落(現状:3ユニット)

検討の視点	岩盤部に局所的に岩上植物が分布する場の保全・再生	
総量維持の 評価指標	①サツキ生育地点の流速 ②サツキの冠水時間	
評価結果	①、②とも現状からの変化率が小さいことから、流れの変化による影響は小さい。	




影響は小さいと予測されるが、事業実施後、継続的なモニタリングを実施する。

IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【影響評価・原則2】

5-2 広がりのあるオギ群集(現状:1ユニット)

検討の視点	広がりのあるオギ群集の保全・再生	
総量維持の 評価指標	①オギ群集の面積 ②水面からの比高	
評価結果	直接改変を受けないため、①、②とも現状から変化しない。	



現存するオギ群集の立地条件と広がりを維持する。

IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【影響評価・配慮を検討すべき「生物の生活空間」】

3-2 礫原草原を確保すべき場所

適度な頻度および強度の攪乱がない礫河原が存在。

▶ 礫河原に特有の植生が生育できる場の再生に努める。

4-1 外来植物群落が入り込んでいる場所

シナダレスズメガヤ群落等が生育。

▶ 川底の掘り下げにより除去されるが、その後の順応的管理に努める。

4-2 外来性魚類が入り込んでいる場所

オオクチバス等が生息。

▶ 駆除対策に努める。

IV 事業による影響と保全・再生方策等

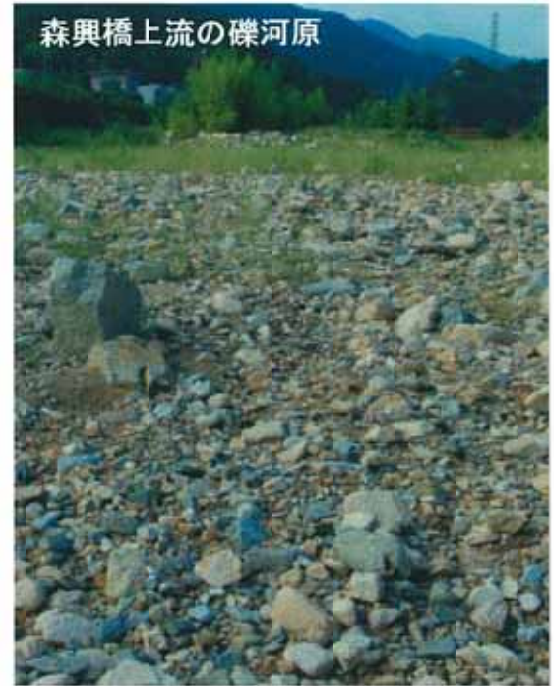
②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【保全・再生方策】

目標: 礫河原の再生

- 礫河原と瀬・淵の再生
- 外来植物の除去
- 代償措置としての礫河原の再生* など

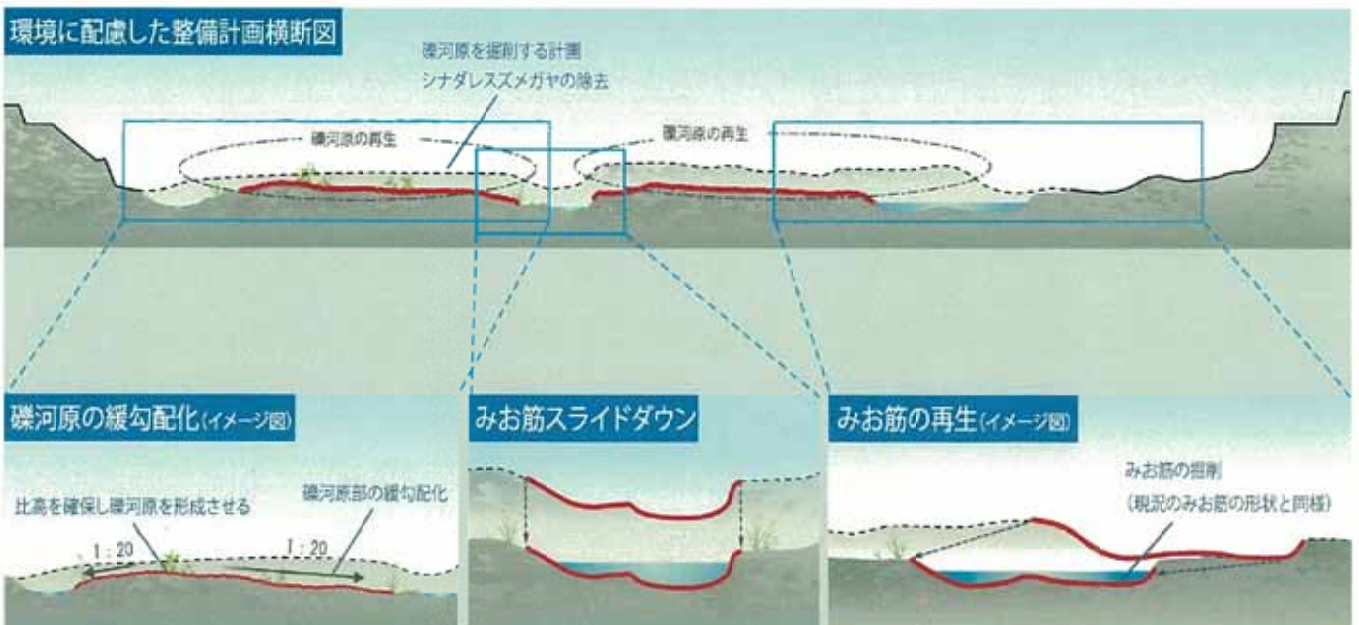
* 当該区間で現状と同程度の礫河原を再生できない場合は、代償措置として区間外での再生を検討。



IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【保全・再生方策】礫河原と瀬・淵の再生など



IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【区間の総合評価】

- 礫河原や瀬・淵の再生などにより、「2つの原則」を守ることができる。
- この区間の持つ課題についても、外来植物の除去などにより改善される。



IV 事業による影響と保全・再生方策等

③上流部(岩鼻橋～山崎橋)

【区間の現状】

- 河床勾配が小さく、緩やかな流れが特徴
- タナゴ類をはじめ、貴重種を含む多くの種の魚類、底生動物などが生息・生育
- 全県的にも極めて生物多様性が高い区間



カネヒラ(タナゴ類)